

大阪府 令和2年9月 定例会本会議 11月26日

【該当箇所抜粋】

○議長（土井達也君） 杉江友介君。

P. 214 （杉江友介君）

◆（杉江友介君） 次に、府立高校の再編整備についてお聞きをいたします。

大阪府立学校条例第二条二項において、「入学を志願する者の数が三年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする。」と明記をされております。

まずは、令和二年度選抜をもって三年連続で定員割れした府立高校二校について、再編整備の判断を行わないこととした理由を教育長にお伺いいたします。

P. 214 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 酒井教育長。

P. 214 教育委員会教育長（酒井隆行君）

◎教育委員会教育長（酒井隆行君）

今年度は、コロナ禍による厳しい社会経済状況の中、受験生や保護者の不安というものが高まっております。また、現在急激に感染が拡大しております第三波への懸念というのも強くございました。そのような中で、決断をいたしましたのは十月でありましたが、十月のタイミングで府立高校の募集停止を発信するという事は、さらに不安を高めることになるということで、最大限配慮をさせていただいたところであります。

P. 214 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 杉江友介君。

P. 214 （杉江友介君）

◆（杉江友介君） 理由にされているコロナ禍による厳しい社会経済状況は、来年度以降も続くことが予測をされております。

また、この二校の再編整備の決定が反映されるのは、今の中学二年生からになります。

そして、来年度、この二校と合わせて、より多くの高校が再編整備の対象となる可能性があります。

現状において、二年連続定員割れをしている府立高校は十一校もあり、来年度募集停止校について、多くの検討が必要になることが考えられます。

このような状況にある中で、今後の再編整備をどのように進めるのかについて、教育長の所見をお伺いいたします。

P. 215 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 酒井教育長。

P. 215 教育委員会教育長（酒井隆行君）

◎教育委員会教育長（酒井隆行君）

来年度につきましては、府立学校条例及び再編整備計画にのっとり、募集停止も含めた再編整備について、しっかりと判断してまいります。

なお、個別校につきましては、学校の特色、地域の特性、志願状況の推移など様々な状況を精査し、総合的に検討を行い、決定をしてまいります。

P. 215 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 杉江友介君。

P. 215 （杉江友介君）

◆（杉江友介君）

府立学校の再編整備を推し進めることは、大阪の高校教育の質の向上に必ずやつながるものと考えております。コロナ禍により様々な懸案があるのは承知をしておりますが、高校の再編整備を確実に進めていただくこと、先ほど教育長からありました、来年度はしっかりと判断をしていくということでもあります。二校と十一校あるわけですが、見送る判断ではなく、しっかりと決める判断をしていただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

次に、府立高校の在り方と果たすべき役割についてお聞きをいたします。

募集停止も含めた高校の再編整備を確実に進めていただく一方で、知的障がいや発達障がいのある児童生徒はさらなる増加傾向にあります。このような状況を踏まえ、今後の府立高校の在り方と果たすべき役割についてどのように考えているのか、教育長の所見をお伺いいたします。

P. 215 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 酒井教育長。

P. 215 教育委員会教育長（酒井隆行君）

◎教育委員会教育長（酒井隆行君）

大阪の府立高校では、生徒の持つ能力を最大限に伸ばす卓越性、課題を抱える生徒や支援を要する生徒を含む全ての生徒の学びを保障する公平性、この二つを高い水準で両立するということを目指し、取組を進めてまいりました。

一方、近年、知的障がいや発達障がいなど支援を要する生徒が急増しており、府内中学校の支援学級卒業生の多くが府立高校に進学している状況、これを考慮いたしますと、公平性を追求する観点において課題があるというふうに考えています。

今後、これまでの取組をしっかりと検証した上で、府立高校における支援を要する生徒の受入れ強化策と併せ、S o c i e t y 5 ・ 0など高校教育を取り巻く環境の変化、ポストコロナ時代の教育の在り方などを見据え、審議会の御意見を伺いながら、引き続き誰一人取り残さない教育の実現を目指す取組を進めてまいります。

P. 215 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 杉江友介君。

P. 215 （杉江友介君）

◆（杉江友介君）

これまでの取組を検証することは大事なことだと思います。その検証結果もしっかりと踏まえ、大阪全体の教育力の向上に取り組んでいただきますようお願いをいたします。

次に移ります。

障がいのある生徒も含め、全ての子どもたちに学びの機会を保障することは、府立高校の役割として大変重要なことでもあります。しかしながら、世界の中で躍動し、成長し続ける大阪の未来を担う、新たな社会を牽引する人材の育成も、大阪府として重要なミッションだと考えます。

その方策として、公設民営高校を創設するという手法が考えられます。それは、地方公共団体が、校地、校舎を譲渡または貸与や出資を行い、共同で学校法人を設立し、専門性やノウハウを有する大学や専門学校などの学校法人、社会福祉法人、教育関連の事業者などに運営を任せるといったものであります。

府立学校の校地、校舎を活用し、公設民営学校を創設して大阪全体の教育力を向上させることについて、教育長の所見をお伺いいたします。

P. 215 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 酒井教育長。

P. 215 教育委員会教育長（酒井隆行君）

◎教育委員会教育長（酒井隆行君）

御提案のありました様々な専門性を有する大学等による高校の運営は、生徒、保護者の多様なニーズに応じた特色ある教育を提供できる可能性があるというふうに考えております。

一方で、直営で運営する場合とのコストの比較、運営主体の持続可能性、教員の量と質の確保などの観点から実現可能性を検証する必要があるがございますので、今後、審議会等におきまして府立高校の在り方を検討する中で、お示しの公設民営学校について研究をしております。

P. 215 議長（土井達也君）

○議長（土井達也君） 杉江友介君。

P. 215 （杉江友介君）

◆（杉江友介君） 前向きな答弁をいただいたと受け止めました。

公設民営学校の創設は、大阪全体の教育力を向上する起爆剤になり得ると考えております。パラダイムシフトを伴う大胆な発想での研究、検討を行っていただきますよう要望いたします。